

3学期始業式 校長講話「最後の総仕上げ 画竜点睛」

あけましておめでとうございます。皆さんは、家族といしてお正月を迎えることができたでしょうか。さて、4月始業式、みなさんに「自慢できるクラスを創ろう」というお願いをしました。

一、二学期を過ごしてきて、クラスにどんな自慢ができましたか。2月になったら、みなさんのクラスの自慢を聞く予定です。担任の先生とクラスの自慢を考えておいてください。この三学期は、自慢できるクラスを創る総仕上げの学期です。その「総仕上げ」関わって「画竜点睛」という言葉について話をします。以前にも紹介しました毛涯章平先生の「ふきのとうの饞別」という本の中にもこのお話がでてきます。

昔、中国の梁^{りやう}という国に、絵が大変上手なお坊さんがいました。ある時、安楽寺というお寺の壁に、四匹の白い竜の絵を描きました。描き終えた竜の絵を見た人が、「絵にまだ瞳を書き入れていないよ。出来映えは、もう一つだな」と言いました。お坊さんは、「瞳を描き入れると、この竜は天に昇ってってしまうので描き入れないのです」と答えたそうです。

すると、「そんなことがあるはずはありません。そういうなら、描き入れてみてください」と言い返されました。お坊さんは、筆をもち、竜の絵に瞳を描き入れたそうです。すると、しばらくして雷が鳴り、稲妻が走り、壁が壊れ、瞳を描いた二匹の竜は雲に乗ってたちまち天に昇っていったということです。

「画竜点睛」の「睛」の字は「瞳」の意味で、「点」は「筆の先などで点をつける」という意味があります。「竜の絵を描いて、瞳を描き入れる」ということですが、この話から「最後に大切な所には手を加えて、総仕上げをする。最後の仕上げが大切です。」という意味になります。一方「画竜点睛を欠く」という言葉もあります。竜の絵に瞳が描き入れられていないということです。これは「全体的にはよくできているようだけれど、肝心なところが欠けている」という意味になります。(実際に、瞳を入れてみます)

三学期は「最後の仕上げ」の学期です。「自慢できるクラス」の総仕上げです。自分に、また、自分のクラスに、どんな瞳を、どのように描き入れたらいいのか考えてみてください。みんなで「自慢できるクラス」の総仕上げとなるよい47日間にしていきましょう。



◆お知らせ◆

(1) 三学期参観日について

・参観日は、現在、実施の方向で予定しております。今後の状況によっては、人数制限を設けさせていただいたり、中止の可能性もあります。ご承知おきください。

○低学年参観日…2月 8日(火)

○高学年参観日…2月25日(金) PTA総会、PTA新旧役員引継ぎ会

(2) 新型コロナウイルス感染防止に係わるお願い ~同居家族の発熱時の対応について~

〈感染レベル3以上の場合〉

・同居家族(兄弟、姉妹等)に、発熱等が見られる場合は、出席停止となります。

〈感染レベル1、2の場合〉

・同居家族(兄弟、姉妹等)に発熱等が見られる場合は、保護者の方と症状を確認させていただき、登校するか否かをご相談させていただきます。

(3) 長野県教育委員会より

☆県教育委員会では、「体罰に係わる相談窓口」を設けています。下記にて、封書、電話、FAX等で相談ができますので、ご活用ください。

宛 先	長野県教育委員会義務教育課 「体罰に関わる相談窓口」宛
住 所	〒380-8570 長野市南長野幅下692-2
電 話	026 - 235 - 7426 (直通)
F A X	026 - 235 - 7494

あけまして おめでとうございます 本年もよろしくお願ひいたします

令和3年度のまとめとなる3学期、卒業や進級に向けて子どもたちがさらに成長できるよう教育活動を進めてまいりたいと思います。引き続き、ご協力をお願いいたします。